

おんだし 押出遺跡第4次発掘調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成23年11月12日

調査要項

遺跡名（番号）	押出遺跡（県番号1302）
所在地	山形県東置賜郡高畠町大字深沼字押出
時代・種別	縄文時代・集落跡
起因事業	農林水産省東北農政局米沢平野農業水利事業所 国営かんがい排水事業（米沢平野二期）
調査依頼者	山形県教育委員会
調査機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成23年10月3日から11月18日まで
調査面積	575m ²
調査担当者	調査研究員 水戸部秀樹（現場責任者） 調査研究員 伊藤大介 調査員 高木茜 濱田純
調査成果（11月4日現在）	検出遺構 住居跡2棟 出土遺物 縄文土器 石器 木製品

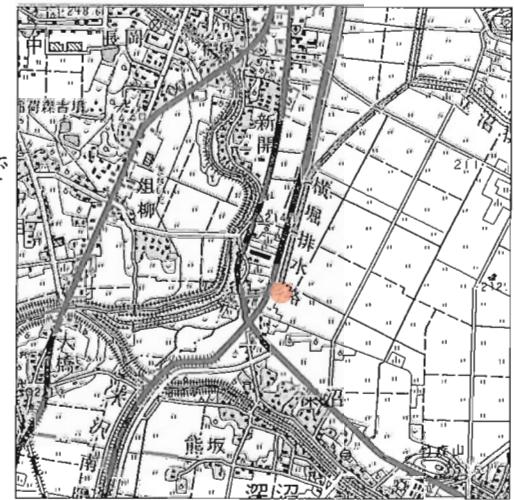


図1 遺跡位置図 (1/50,000)

1 調査の概要

押出遺跡の発見は、1971年に沼尻堀の掘削後の排土から土器や石器が拾い上げられたことが契機となりました。1985年からは、国道13号建設工事を起因として3カ年におよぶ発掘調査が行われ、大きな成果が得られています。地下2m下に、特殊な構造をもつ住居群、通常の遺跡では残りにくい有機質遺物、彩漆土器や木胎漆器などを始めとする貴重な遺構・遺物の数々が発見されました。その重要性は、約1,100点の出土品が、国指定重要文化財となつたことからもうかがえます。今回の第4次調査でも、小さい面積の調査区にもかかわらず、前回の調査成果に類する重要な遺構・遺物が見つかりました。

押出遺跡は大谷地と呼ばれる湿地帯に位置しています。現在では開拓され、どこにでもある

水田が広がっていますが、かつては舟を使って田植えを行ったほどと言われています。大谷地周辺には、縄文時代の遺跡が数多く知られています。生活に適した環境（気候、食料とも）であったと考えられますが、果たして大谷地の内部に集落を構えた押出遺跡の暮らしぶりはいったいどのようなものだったのでしょうか。

2 見つかった遺構と遺物

沼尻堀の堀底は遺跡の下まで掘削されており、ほとんど何も残っていませんでした。第1～3次調査では住居跡39棟、集石遺構1基が見つかっています（図2・写真6）。今回の第4次調査では、堀の西岸部から、住居跡2棟や多数の遺物が見つかりました。住居跡は前回の調査でも見つかった盛土をもつものです。住居1・2は大きさが違いますが構造は同じです。盛土の下に転ばし根太とよばれる丸太材を縦横

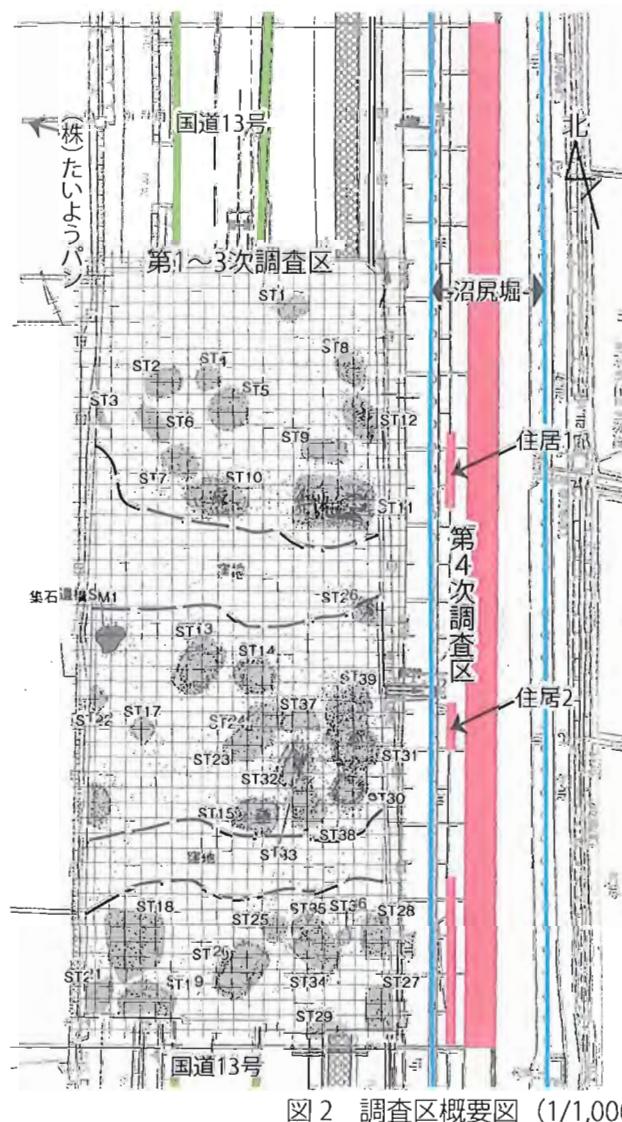


図2 調査区概要図 (1/1,000)

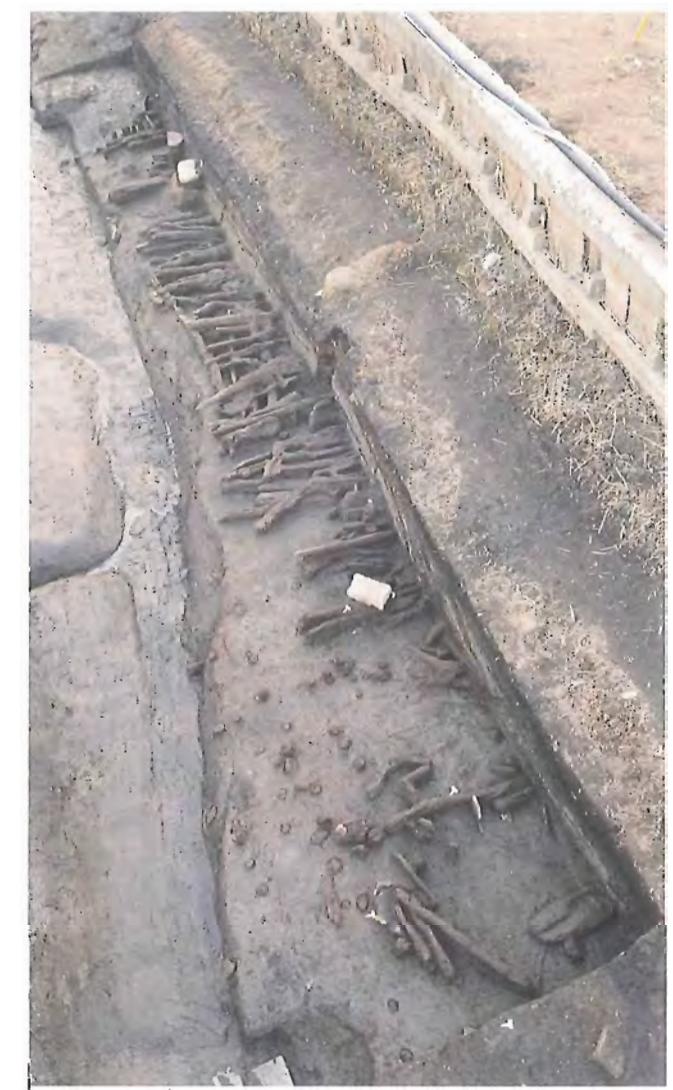


写真1 住居1検出状況（北東から）



写真2 住居1の盛土断面（南西から）

に敷き詰めています。柔らかい地盤に住居を建てるための工夫であると考えられます（写真1・3・5）。盛土には、砂や粘土が交互に積み重ねられていました（写真2・4）。また、盛土の周囲には壁柱と考えられる多数の柱が打ち込まれています（写真1・5）。これらの遺構から当時の住居は、図3・写真7のように復元されています。今回は幅1mのみの調査ですが、全体



写真3 住居1中央部検出状況（北から）



写真4 住居2の盛土断面 (南西から)



写真5 住居2検出状況 (北東から)



写真6 3次調査の15号住居跡
(東から: 文献1より)

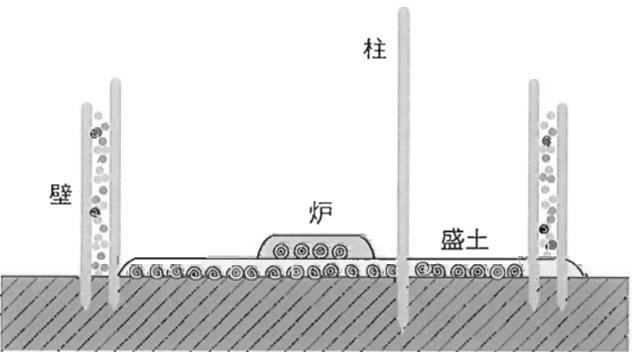


図3 住居下部構造模式図 (文献1より)



写真7 20号住居跡復元模型 (文献1より)

では、写真6のようになると考えられます。今回の調査では、漆が塗られた土器やクッキー状炭化物などは出土していませんが、多数の縄文土器（約5,500年前・写真8～10）、石器が見つかっています。木製品は皿が1点のみです。土器の大半は、東北地方南部の土器型式である粘土紐を貼り付けた曲線的な文様が特徴の大木4式期のものですが、一部他地域（新潟方面など）の土器型式も出土しており、人・モノの交流がうかがえます。石器は、石鏸、押



写真8 住居1土器出土状況 (北東から)



写真10 土器出土状況 (南西から)



写真11 押出型ポイント
出型ポイント (写

いしさじ
真11)、石匙、
せきすい
石鑷、異形石器(写
真12)、磨製石斧、
凹石、石皿などが



写真12 異形石器
見つかっています。押出型ポン



写真9 土器出土状況 (南東から)

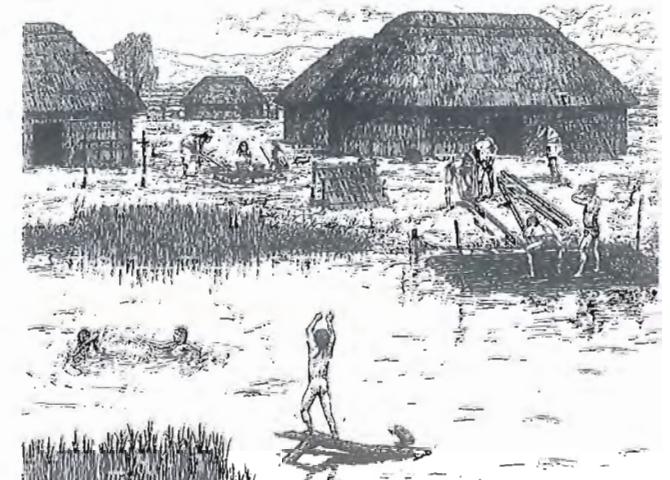


図4 ある日の押出ムラ (文献1より)

トは本遺跡で特徴的な石器であり、湿地に生えるヨシなどを刈り取るために使われました。異形石器は実用品ではなく祭りに使われたと考えられています。ほかに食料となったクルミの殻が大量に見つかりました。

3まとめ

当時の押出遺跡の様子は図4のように想像されています。湿地に適応した住居や石器などを用いていますが、その暮らしぶりは、湿地を選んで住んだのか、あるいはほかに住む場所がなかったのかで大きく変わります。見つかった多種多様な遺物からは、積極的に湿地へと進出していった可能性も十分に考えられるのではないかでしょうか。

引用文献

文献1：山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 2007『押出遺跡』